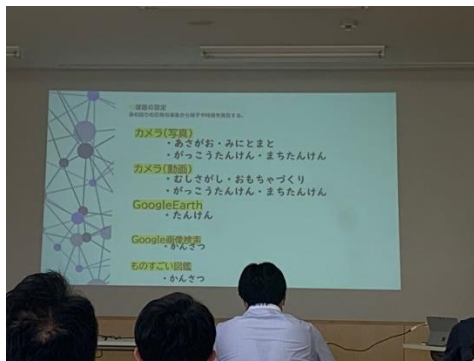


生活科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	「対話的な授業の入り口」としての端末活用	
日時	令和 4年7月26日(火)	
会場	江別市立江別第二小学校	
講師	安井 政樹氏 (肩書:札幌国際大学 スポーツ人間学部 スポーツ指導学科 准教授)	
参加者	21名	
研修会 の 様子		① 部長挨拶 研修に先立ち、部長から講師の紹介を行った。 4月に小学校教員から大学教員へと職種を変えたばかりの講師は、我々現場の人間が親しみやすさを感じるには十分であった。
		② 講演1 「実技研修会」は名の通り「実技」に重きが置かれがちだが、道具を使うにはその理由がある。 そもそもその道具を使うことで、提供する側は何を育てたいのかという前提を揃えるところから講話が始まった。
		③ 講演2 受講者のニーズがどこにあるのかを探るために、「Mentimeter」を活用した。 ワードクラウドが展開され、自分たちが打ち込んだ情報がすぐさま反映される様子は、受講者にとって「授業で活かせる場」を想像させたに違いない。
		④ 講演3 テーマに「対話」という言葉を設定した。 事務局側の研修のねらいは、授業者視点で「できることを増やす」だったが、安井氏はさらに高い視座から「研修そのものを対話的な場」として捉えていた。受講者に寄りそいながら、講師としてというよりも「現場感覚を持った者」として伴走する」という印象を受けた。



⑤ 講演4

市町村ごとに使用している OS が違うため、OS を選ばずウェブ上で使えるツールを紹介していただいた。生活科では一般的だった「ワークシートを書く」という行為の捉え方が大きく変化する。そんな可能性を感じる瞬間だった。